



mura note file
むらの声 #01

先人の苦勞で生まれ変わった 美田を未来につなぐ

雪をまとった富士山を借景に、レンゲ畑と新幹線の共演が見事な春の浮島ヶ原。この絶景を多くの人に楽しんでもらおうと、農道の草刈りやレンゲの種まきに取り組んでいる。



富士山のふもとの郷を守る会のメンバー。左から島田隆さん、中村幸男さん、加納孝則さん、伊東隆典さん。

富士山のふもとの郷 を守る会

ふじさんのふもとのさとをまもるむら

富士市

- 車/東名高速 富士IC から約 20分
- 新東名高速 新富士IC から約 25分
- 電車/JR 吉原駅から山手線南口から徒歩約10分

富士山南麓に広がる、浮島ヶ原。かつては浮島沼と呼ばれ、富士山を眺望できる風光明媚な場所として、歌川広重をはじめ多くの浮世絵師によって描かれています。しかし、もともと沼地や葦原を開拓した湿地帯であるため、田植えの際には泥深い水田に腰まで浸かり、田舟で苗を運搬しなければならぬ、農業を営むには劣悪な環境でした。

江戸時代から治水排水工事が行われ、近年になって沼川排水路が完成すると、急速に乾田化が進み、優良農地となりました。しかし、農業者の高齢化に伴い、農地周辺の管理が行き届かない状況も見受けられるようになりました。

そこで、先人の苦勞で生まれ変わった美田を未来につなぐと、平成19年に「富士山のふもとの郷を守る会」を発足。地域清掃や水路の草刈作業など、企業と住民が一体となって環境保全活動に取り組んでいます。

平成30年からは食育の一環として、元吉原小学校の5年生を対象に農業体験を実施。

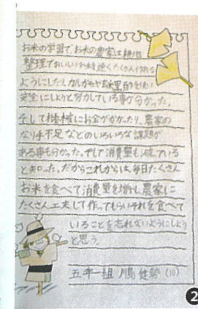


①昔ながらの農具を使った手植えに挑戦!三角柱の定規を使って等間隔にコシヒカリの苗を植えていきます。
②農業体験に参加した子どもたちから感謝の手紙。地道な活動が実っています。
③秋晴れの中、稲刈りが終わった田んぼにレンゲの種をまきました。

子どもたちがお米作りの大切さを学ぶ貴重な機会となっています。

「水が張られた約500平方メートルの水田に足を入れて、『田植え定規』と呼ばれる三角柱の定規を使って等間隔にコシヒカリの苗を植えていきます。泥に足をとられてはしゃぐ子どもたちの姿が微笑ましかったです」と笑顔を見せるのは、代表の加納孝則さん。秋には鎌を使った稲刈りを体験し、給食で味わいます。

また、田んぼで育てたレンゲを肥料にするという昔ながらの風景を地域に伝えていこうと、須津幼稚園の園児と一



緒に、稲刈りが終わった田んぼでレンゲの種まきと花の摘み取りを行っています。

「富士山と新幹線と田んぼの景色で知られるこの場所にレンゲの花が咲く風景が、子どもたちの思い出に残っているんです」と願うメンバーの皆さん。今年も4月中旬に見頃を迎えます。

貴重な動植物に出会える 浮島ヶ原自然公園



浮島ヶ原の湿原には、環境省レッドデータブックに記載されている貴重な植物が分布しています。園内では浮島固有種とされるナヨナヨスレナグサをはじめ、全国的に稀となったサワトランノオや絶滅危惧種のノウルシの群落など、貴重な動植物と出会うことができます。

- 富士市中里 2553-8
- ☎0545-55-2795 8:30~17:30
- 🅐駐車場 35台 (無料)

地元で愛される希少なブランド梨 富士梨



糖度が高くジューシー!シャリシャリとした爽やかな食感が特徴の富士梨。幸水は8月上旬、豊水は8月下旬に収穫されます。市内の農業者直売所やJAふじ伊豆産直市で購入できます。

- 時期/8月~9月頃
- ☎0545-55-2780 (富士市農政課)

四季折々の田園風景と地元グルメを満喫!

富士山と新幹線、そしてレンゲや桜、菜の花など季節の花々とのコラボが楽しめます。カメラ片手に一日中、雲の流れを見ながらシャッターチャンスを狙っている方をよく見かけますね。田植え直後の水田に富士山と愛鷹山が映り込む景観もおすすめ。美しい景色を眺めながら、地元で採れた富士梨やシラスなどの食べ歩きも楽しいですよ。

話ひとマッセージ

かとう たかひり
加納 孝則さん

富士市増川在住。富士東部土地改良区の理事長。代々続く農家として米とみかんの栽培を手がけている。

